
The 3rd POD (Power of Diversity) Conference, 2015

パフォーマンスと人間発達：演じる力、生きる力

言語的文化的多様性を生きる子どもたちのための第3回POD会議

今年もPOD会議を開催します。世界的に見ても日本の子ども達の自己評価の低さはよく話題になるところです。学習意欲は未来の自分に期待する気持ちがなければなりません。自分に自信がなく、自分育てを望まない子、諦めてしまっている子どもは学習に積極的に向かうことはできません。教科学習はもちろんですが、他者とよき場をつくる力である社会的コミュニケーション・スキルの学習についても同じことが言えます。自分に、他者に、そして自分達が生きているコミュニティや社会に信頼を置き、その発達を推し進める主体となろうとする子どもたちはどのような活動の中で育つのでしょうか。多様性を生きる子ども達もその自らが背負う歴史や現在の事実を肯定しながら、自らの未来を切り拓く力が求められます。今回はそうした学習感覚を培う活動として演劇パフォーマンスという活動の意義を皆で考えてみましょう。

様々な演劇実践を通して、子どもを含む地域住民に遊びと学びの機会を提供する活動に関わる方々に集まっていただきます。芸術的パフォーマンスの子ども達の発達に与える影響や役割、課題について議論します。誰でもがお互いに異なり、誰でもが固有の存在です。「人は誰でもお互いに多様性を生きる存在である」というこのあたりまえの事実を前提として、演劇を中心とした芸術的パフォーマンスの可能性を探求します。このことが、言語的文化的多様性を生きる子どもたちの学習と発達の課題に対しても有意義な示唆を与えてくれることでしょう。是非奮ってご参加ください。

主催：「海外にルーツがある文化的に多様な子ども達の表現活動を中心とした学習共同体の研究」(科学研究費助成事業 基盤研究 (B))

後援：可児市文化創造センター

■日程・場所

12月12日(土) 13:00 ~ 20:00 (懇親会を含む) モリス館(本館) 1204 教室
12月13日(日) 10:00 ~ 16:00 太刀川記念館 3階多目的ホール

・池袋駅から立教大学池袋キャンパス(池袋駅 C3 出口より 5 分, JR 池袋駅から約 10 分)

<https://www.rikkyo.ac.jp/access/ikebukuro/direction/>

・キャンパスマップ

<https://www.rikkyo.ac.jp/access/ikebukuro/campusmap/>

・モリス館(本館)は正門から見える時計台のある蔦の絡まる校舎

<http://www.ee-tokyo.com/kenzoubutsu/rikkyou-daigaku/honkan.html>

・太刀川記念館 <https://www.rikkyo.ac.jp/access/ikebukuro/>

*日曜日には正門が閉まっていることが予想されます。その場合には、12号館横のタッカ一門の守衛所があるところからお入り下さい。

■スケジュール

二日間のシンポジウムです。二日間に渡って参加者全員で演劇パフォーマンス活動について考えていきます。報告者の方からそれぞれ報告してもらうことでお互いを刺激し合い、最後に全員でフリーディスカッションをします。一つの結論を求めるのではなく、これから取り組まなくてはならない意義ある多くの課題が見つかることを期待しています。一日目の最後にはみんなでフリーに話し合うウェルカム・シンポジウムの時間も設けています。他者との出会いを楽しみましょう。報告順は都合により変更されることもあります。

12月12日(土) モリス館(本館) 1204 教室

		司会者		報告者
13:00	13:30	石黒	1	石黒(開会挨拶)
13:30	14:00		2	全員の自己紹介
14:00	14:10			休憩
14:10		宮崎	3	衛 紀生
14:40			4	松浦正和
15:10			5	森さゆ里
15:40			6	大島広子
16:10	16:30			休憩
16:30		館岡	7	漢 幸雄
17:00			8	林 英樹

2015年12月12日-13日 第3回POD会議 一般参加者案内

17:30 9 常田景子
 18:00 18:10 休憩

18:10 20:00 ウェルカム・シンポジウム

12月13日(日) 太刀川記念館3階多目的ホール

	司会者	報告者
10:00	石黒	挨拶と参加者自己紹介
10:20	10	舘岡洋子・深澤伸子
10:50	11	川島裕子
11:20	12	渡辺貴裕
11:50	13	内田祥子
12:20		休憩
13:20	宮崎	全員討議 (途中休憩)
16:00		閉会

■報告者一覧

石黒広昭 立教大学教授(発達心理学・教育心理学)
 宮崎隆士 北海道大学教授(社会教育)
 舘岡洋子 早稲田大学教授(日本語教育)
 深澤 伸子 タイにおける母語・継承語としての日本語教育研究会会長
 内田祥子 高崎健康福祉大学講師(保育学・発達心理学)
 渡辺貴裕 東京学芸大学准教授(教育と演劇)
 川島裕子 北海道教育大学特任研究員(教師教育と演劇)
 衛 紀生 可児市文化創造センターアール館長兼劇場総監督
 松浦正和 (公財) 可児市文化芸術振興財団事業制作課主任
 森さゆ里 文学座 舞台演出家・演劇ワークショップ講師
 大島広子 舞台芸術家 (フリー)
 常田景子 フリーランス翻訳家
 林 英樹 テラ・アーツ・ファクトリー 代表

2015年12月12日-13日 第3回POD会議 一般参加者案内

公益社団法人 国際演劇協会日本センター 理事
漢 幸雄 士別市教育委員会生涯学習部次長兼地域教育課長
あさひサンライズホール館長

・参加予定者

本堂晴生 NPO法人 いせさきNPO協議会 社会貢献ネット代表理事
佐藤茂紀 劇団ユニット・ラビッツ 代表, 福島県高校教諭
高萩 宏 東京芸術劇場副館長
他

■報告者紹介 ○は主催科研メンバー

石黒広昭 (立教大学文学部 教授 (発達心理学・教育心理学)) ○

活動紹介：人間の学習と発達の過程について研究している。多様な環境の中で示す人の多様な生きざまに惹かれる。パフォーマンスアートに関しては創作することの意味を、思考、言語、情動、社会をキーワードとして捉えたいと思っている。

URL：<http://www.rikkyo.ne.jp/web/ishiguro/framepage1.htm> (石黒研究室)

宮崎隆士 (北海道大学大学院教育学研究院 教授 (社会教育)) ○

活動紹介：Community Empowerment をキーワードに、個人の発達と社会の発展を統一的にとらえる学びの在り方を探究しています。その鍵を握るのが創造的学習なのですが、この学習の展開は非決定空間としての表現・対話・協働の空間に支えられていると考えています。

URL：<http://shakyo.edu.hokudai.ac.jp/> (北海道大学大学院教育学研究院社会教育研究室)

舘岡洋子 (早稲田大学大学院日本語教育研究科 教授 (日本語教育)) ○

コミュニティとしての「ことばを学ぶ教室」における教室ならではの協働的で創造的な学びの場の創出について考えている。母語あるいは外国語による対話を通して、自己表現し他者理解をしようとする空間において、人々がどのように変容していくかに関心をもっている。

URL：<http://www.gsjal.jp/tateoka/>

深澤伸子 (タイにおける母語・継承語としての日本語教育研究会 会長)

活動紹介：この会では、タイで育つ日本にルーツを持つ子どもたちの幸福を、子どもを取り巻く全ての大人たちが、それぞれの立場から「ことば」を切り口に考えていきます。ことばの力とは、自分を理解し、人を理解し、社会との関係を拓いていける力のことです。

その力を育てるために一人でも多くの方々と一緒に考え、活動していきたいと思います。

URL：<http://d.hatena.ne.jp/jmherat/> (タイにおける母語・継承語としての日本語教育研究会)

内田祥子 (高崎健康福祉大学人間発達学部子ども教育学科講師 (保育学・発達心理学)) ○
活動紹介：Playshop は 2003 年度から大学研究室と様々な保育・教育現場が共同で実施している遊びプログラム。大人と子どもは、遊びの中でストーリーの劇化をおこない、協働的な「遊び世界」を創造します。

URL：http://www.takasaki-u.ac.jp/p_child/1195/

渡辺貴裕 (東京学芸大学教職大学院 准教授 (教育と演劇)・学びの空間研究会 主宰)

活動紹介：教育方法学を専門とし、演劇的手法を用いた学習に関して研究を進めてきました。小中高の先生方と共にさまざまな教科・領域での実践を生みだしてきています。

川島裕子 (北海道教育大学 特任研究員 (教育と演劇))

活動紹介：役者経験を経て、演劇的手法による教師のコミュニケーション育成のための授業開発と実践を教員養成4大学で行う。演劇パフォーマンスに着目し、学校での若者の身体形成を研究。教育現場で演劇ワークショップを行う。トロント大学博士課程。

URL：<http://hato-project.jp/hue/project/p3.html> (「大学間連携による教員養成の高度化支援システムの構築-教員養成ルネッサンス・HATO プロジェクト」の先導的実践プログラム「演劇的手法による教員養成課程の学生並びに現職教員のコミュニケーション能力育成プロジェクト」)

衛 紀生 (可児市文化創造センター 館長兼劇場総監督)

活動紹介：歌舞伎・演劇評論家、文化行政アドバイザー。93年舞台芸術環境フォーラムを設立。早稲田大学文学部講師。宮城大学事業構想学部・大学院の客員教授を経て現職。十数地域の自治体文化行政にかかわる一方で、文化庁、地域創造、芸術文化振興基金などの委員を務める。

URL：<http://www.kpac.or.jp> ((公財) 可児市文化芸術振興財団)

松浦正和 ((公財) 可児市文化芸術振興財団事業制作課 主任)

活動紹介：可児市文化創造センターにてマーケティングを担当したのち、現職の事業制作担当へ。社会包摂型事業に関心を持ち、当劇場の多文化共生プロジェクトに3年関わるほか、演劇やダンスの市民参加公演の制作を担当。

URL：同上

森さゆ里 (文学座 舞台演出家・演劇ワークショップ講師)

活動紹介：舞台創作は、オペラから下北沢。3歳から80歳。在住の外国人、障害者の方とも、幅広く活動。演劇ワークショップ講師は、小学校・高校・大学、そして文化庁、地域コミュニティに向けて全国各地で開催。

大島広子 (舞台芸術家 (フリー))

活動紹介：ロンドン、セントラル・セント・マーチンズ美術大学、舞台美術コース卒業。2010年から1年間、文化庁新進芸術家海外研修制度において、舞台美術研修生としてドイツ、ライプツィヒに滞在。これまでに、児童演劇、翻訳劇、ミュージカルなど70作品以上に舞台美術家として参加。小中高校生対象の美術、演劇ワークショップの講師としても活動中。

URL：<http://www.hirokooshima.net/> (HIroko Oshima Stage and Costume design)

常田景子 (フリーランス翻訳家)

活動紹介：劇場公演の上演台本として英語圏の戯曲翻訳を主とし、日本の戯曲を海外に紹介するための英訳も行なっている。近年の主な上演作品に『ヒストリー・ボーイズ』『奇跡の人』『永遠の一瞬』『6週間のダンスレッスン』などがある。

林 英樹 (テラ・アーツ・ファクトリー 代表・公益社団法人 国際演劇協会日本センター 理事)

活動紹介：1980年代より恒常的な演劇ワークショップを開催する。日本、海外でワークショップをベースにした舞台作りを実践する。「紛争地域から生まれた演劇」の総合プロデューサーを勤める。

URL：<http://www.geocities.jp/terra2001jp/> (テラ・アーツ・ファクトリー) ,
<http://iti-japan.or.jp/> (公益社団法人 国際演劇協会日本センター)

漢 幸雄 (土別市教育委員会生涯学習部次長兼地域教育課長・あさひサンライズホール館長)

活動紹介：平成6年のあさひサンライズホールの開館準備から担当。鑑賞事業の他、演劇を中心とした市民参加型の事業や市内全小中学校を対象としたアート体験事業を手掛ける。市民劇は13年間で14本をコンスタントに製作。現在は全ての小中学生が年間に最低2時間のアート体験が実現するワークショップを中心としたアウトリーチを継続。

URL：<http://sunrisehall.web.fc2.com/> (あさひサンライズホール)

<https://www.facebook.com/Asahisunrisehall> (あさひサンライズホール Facebook)

2015年12月12日-13日 第3回POD会議 一般参加者案内

■その他

- ・一日目夕刻のウェルカム・シンポジウムは、軽食をとりながらその日の個人報告について自由に意見交換する大切な時間です。是非そのままご参加下さい。会費無料です。
- ・一般参加者の方は以下のサイトからお申し込み下さい。登録がうまくできないようでしたら直接 POD 事務局にメールをして下さい。12日の会場はあまり広くありません。資料準備等の都合もありますので是非事前登録をお願い致します。

<https://sites.google.com/site/podiversity/3rd-pod/application>

■POD事務局

連絡先アドレス：podiversity@gmail.com

〒171-8501 東京都豊島区西池袋 3-34-1 立教大学ロイドホール L528 石黒研究室内

以上

石黒広昭（立教大学・文学部）

言語的文化的多様性を生きる子どもたちのための第3回POD会議 POD事務局代表

主催：「海外にルーツがある文化的に多様な子ども達の表現活動を中心とした学習共同体の研究」（科学研究費助成事業 基盤研究（B））